

第2四半期連結業績ハイライト

(百万円)	18/3期 2Q (実績)	19/3期 2Q (実績)	前年同期比 増減額
売上高	1,793	2,026	233
売上総利益	583	602	19
販売費及び一般管理費	425	454	29
営業利益	158	147	△11
経常利益	178	173	△5
特別損失	—	△2,664	△2,664
税引前当期純利益	179	△2,458	△2,637
親会社株主に帰属 する当期純利益	105	△2,524	△2,629

- 売上高はeコマース事業の伸長などにより堅調に推移
- 一方で、新規事業への先行投資と人材の採用、M&A費用により利益は減少
- E M T Gの子会社化に伴い、株価が上昇したことから特別損失を計上（次ページ参照）

特別損失の計上について 1

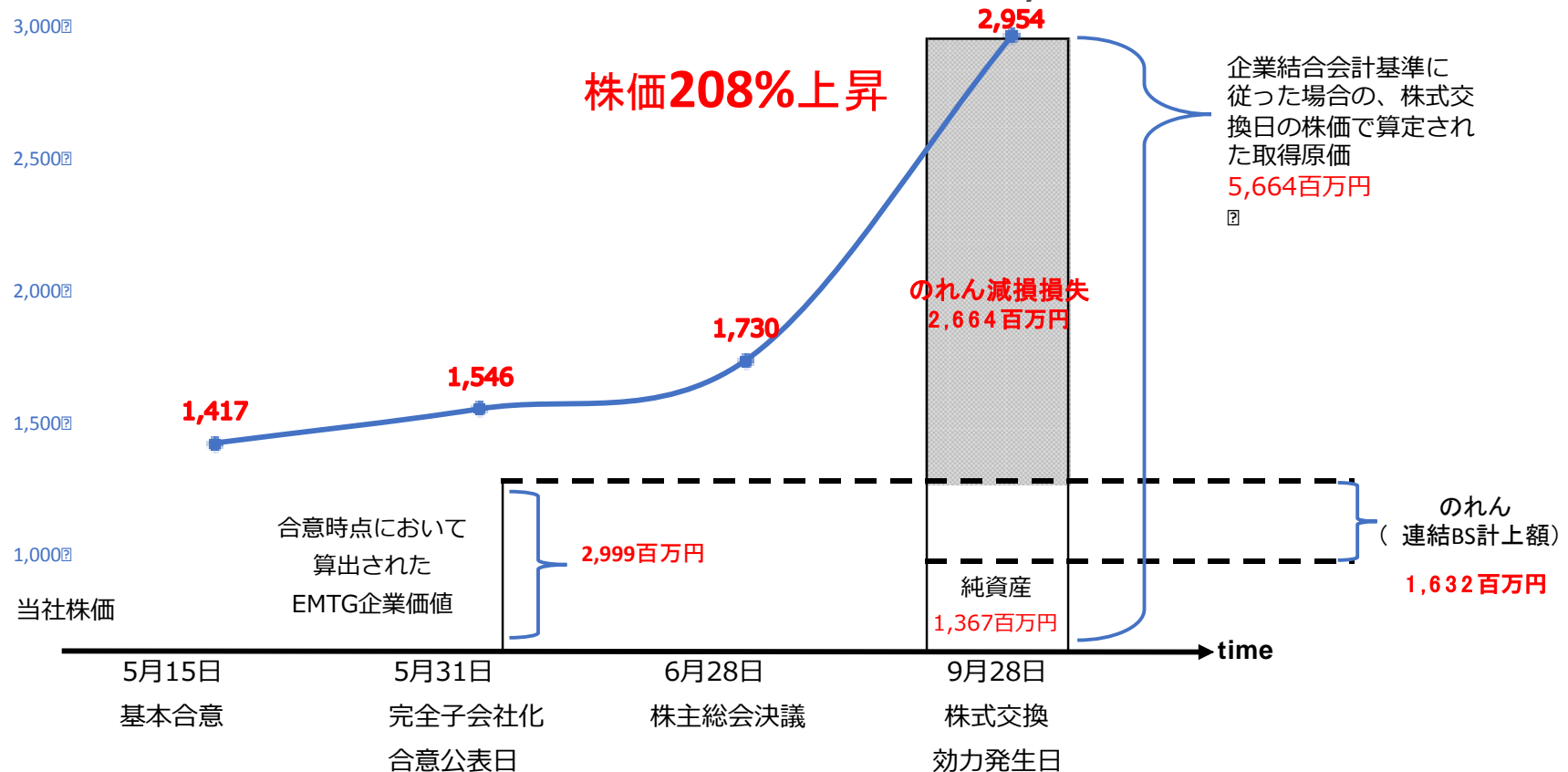
- 株式交換比率は、株主総会の議案確定のためにも、合意日に決定しなければならず、その後、株主総会決議から事務手続きを経て株式交換が実行されるまでには、一定の期間が必要とります。
(当社の場合には、5月15日の基本合意から、9月28日の株式交換日まで4ヶ月半)
- 通常、株式交換をした場合には、発行済株式数が増加するため、株価は大きく上昇することはまれです。
- しかし、今回の株式交換の場合は、当社とEMTGとのシナジー効果や、電子チケットなどEMTGの事業性、将来性への期待が高く、株価が約2倍へと大きく上昇しました。
- 現在の日本基準の会計学の考え方では、交換時点の株価が基準となり、交換対価として発行した株式の時価（約55億円／1,522,257株：BSに計上）が、当社の子会社株式の価格となり、当初合意した交換価格（約30億円／1,522,257株）との差額（約25億円：P/Lで調整）を特別損失として計上しなければならないと監査法人より指摘されました。
- 株価が上昇したことによって、**BS上の子会社株式の取得額も上昇し、これを調整するためにP/Lで損失を計上**するということは、会社法や株式事務手続きに会計基準が対応しきれていないことが要因でもあります。
- また、株価の上昇分には、EMTGへの期待値も含まれていると考えられます。
何より、株価が上昇したことで見かけ上の損失を計上しなければならないことで、今後の当社に期待を寄せいただいた株主の皆様へもご迷惑をおかけしてしまうこととなります。
- そのため、弁護士をはじめ関係各所と協議を進めてきましたが、当社のように株式交換の公表後に株価が約2倍となった前例は過去にはなく、基準自体への検討が必要であるものの、現行の会計基準に従わざるを得ないと判断し、損失を計上することにしました。

特別損失の計上について 2

- 実態を反映されない会計学上の解釈によって、株価の上昇分を当社の損失として、計上せざるを得ないということは、**創業以来、赤字決算が一度もない**当社としては、今後の当社へと期待を寄せていただいている、株主の皆さまを不安にさせてしまうことでもあり、大変遺憾です。
- こうした前向きな株式交換と、株価の上昇によって会計上の損失が出る事態は、今後の柔軟なM&A戦略、成長戦略の妨げとなることから、関係各所に問題提起するとともに、会計基準については検討していただきたくお願い申し上げていく所存であります。
- なお、今回、損失処理を行っているものの、EMTG株式の取得原価と同額で新株を発行しているため、**株主資本の毀損はありません。**
- この特別損失の計上により、一時的に利益剰余金はマイナスとなりますが、それ以上に資本剰余金も増加しているため、**当社および当社グループの純資産に影響は全くありません。**

特別損失の計上について 3

- EMTGとの株式交換について、合意公表日から株式交換日までの当社株価の上昇により、
- 会計学上の解釈により、株価の上昇分を特別損失（2,664百万円）として計上



- 企業会計基準に則った理論上の損失であるため、実際に費用が発生したことはなく、また、現金収支にも全く影響はありません。
- 詳しくは11月14日に開示いたしました「特別損失の計上に関するお知らせ」もご覧ください。

EMTG連結後の19年3月期 業績見通しについて 1

(百万円)	18/3期		19/3期		前期比
	(実績)	比率	(予想)	比率	
売上高	3,683	100%	6,300	100%	171.1%
売上総利益	1,157	31.4%	1,880	29.8%	162.5%
販売費及び一般管理費	847	23.0%	1,561	24.8%	184.3%
(うちのれん償却額)	0	—	136	2.2%	—
営業利益	309	8.4%	325	5.2%	105.2%
経常利益	434	11.8%	284	4.5%	65.4%
税引前当期純利益	295	8.0%	△2,100	—	—
親会社に帰属する 当期純利益	101	2.7%	△2,300	—	—

- EMTGの完全子会社化により、下期からの6ヶ月間分のみ同社を連結
- 連結にあたり、来期以降に向け当社と同様の基準で、資産計上されていたEMTGのソフトウェアを費用処理
- そのため、今期に限りEMTG分の利益は減少
- 全社では、既存事業の底上げもあり、売上高は過去最高となり、先行投資、M&A費用も吸収し増益
- 特別損失は会計上の解釈によるものであり、それを除く本業は堅調。法人税等も200百万円ほどを見込む。

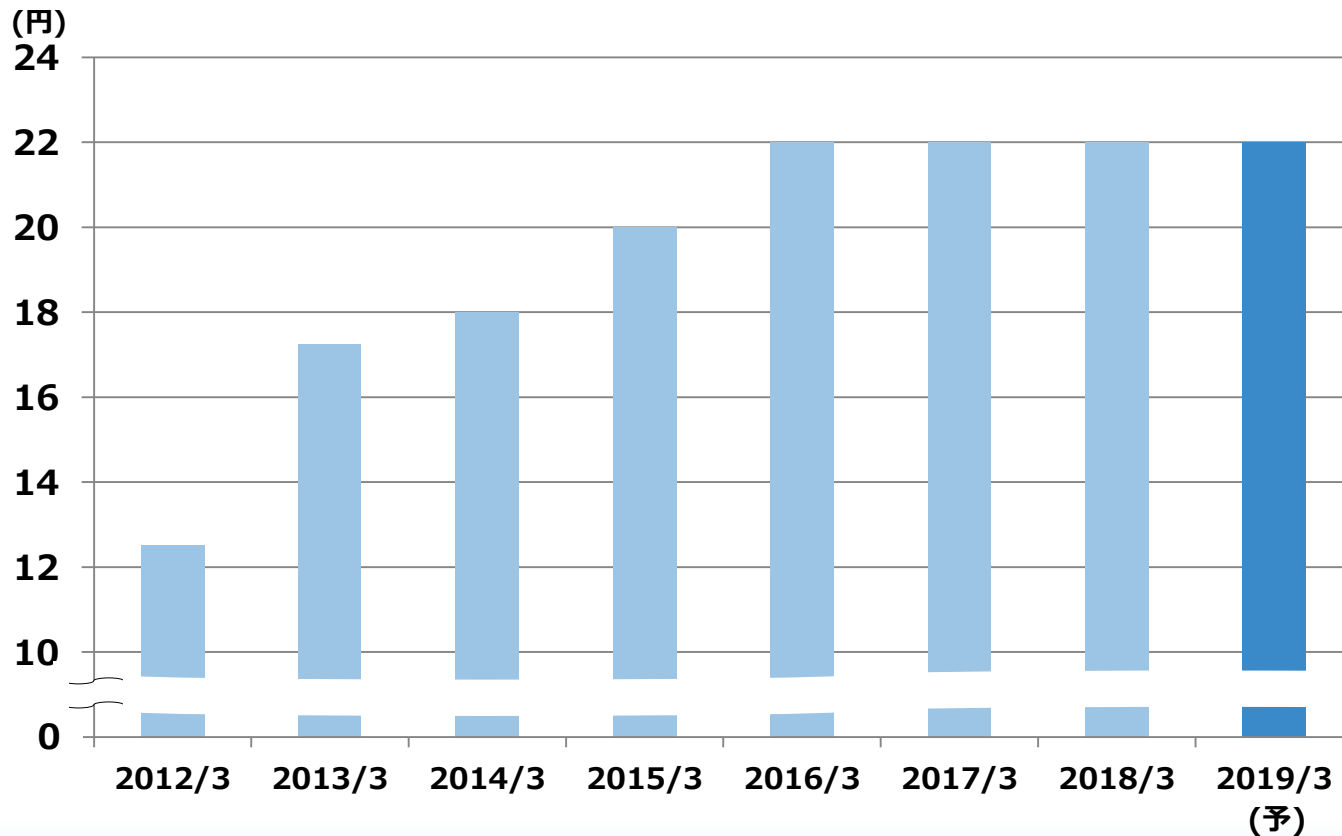
EMTG連結後の19年3月期 業績見通しについて 2

- 19年3月期の営業利益、経常利益について
- 設立以来、当社では、事業活動の成果を適時適切に財務諸表に反映させるため、原則的にはソフトウェアについては資産計上せず、研究開発費として費用処理しております。
- これに対して、EMTGはソフトウェアを資産計上し、5年間で償却しておりました。
- 今回、EMTGを完全子会社化するにあたり、これまで同社が資産計上していたソフトウェア資産を見直し、19年3月期において、ソフトウェアを費用処理することといたしました。
- 以上より、平成31年3月期の業績予想において
売上高は3,863百万円から6,300百万円（前年同期比171.1%）へと増加する見通しです。
一方で、上記の通りEMTGのソフトウェアの費用処理によって利益は圧迫され、
営業利益は325百万円、特別損失の計上により当期純利益は△2,300百万円となることを見通しております。
- 19年3月期にソフトウェアを費用処理することで、20年3月期以降はEMTGの財務体質は改善し、収益性が向上し、利益率は適正な水準に戻ると想定しております。
- また、当社グループとしてシナジー効果を発揮させることで、グループ全体としての利益も増加していくと見込んでおります。

配当政策

今後も積極的な事業投資と高配当を維持

会計上の一時的な要因により特別損失を計上いたしました、純資産、現金及び預金は大幅に増加しており、財政体質への影響は全くないことから、**2019年3月期の配当は22円を維持いたします。**



株主優待制度

毎年、期末(3月31日)及び第2四半期末(9月30日)現在の当社株主名簿に記載または記録された当社株式1単位(100株)以上を保有する株主様を対象に当社オリジナルのQUOカード500円分を贈呈(年間 1,000円贈呈)



要約貸借対照表

	18/3期 2Q (実績)	19/3期 2Q (実績)	前年同期比 増減額
流動資産	2,016	6,217	4,201
現預金	1,245	4,420	3,175
売上債権	588	1,173	585
棚卸資産	21	27	6
その他	161	595	434
固定資産	1,012	2,614	1,602
有形固定資産	287	445	158
無形固定資産	80	1,677	1,597
のれん	10	1,632	1,622
投資その他の資産	644	491	△153
資産合計	3,029	8,832	5,803

	18/3期 2Q (実績)	19/3期 2Q (実績)	前年同期比 増減額
流動負債	798	4,705	3,907
買掛債務	400	2,240	1,840
有利子負債	0	0	0
その他	397	2,465	2,067
固定負債	41	25	△16
負債合計	839	4,731	3,892
純資産	2,189	4,101	2,067
株主資本	2,126	4,074	2,067
その他	62	26	2,067
負債・純資産合計	3,029	8,832	5,803

- 現預金は、約3.5倍の4,420百万円、株主資本は約2倍の4,074百万円へとそれぞれ大きく増加、財務基盤はより強固に
- 利益剰余金は一時的にはマイナスとなりますが、19年6月開催の株主総会において、増加した資本剰余金を振り替え、本来の形に戻し、マイナスは解消する予定
- 有利子負債は、創業以来ゼロを継続